

不安は頑張っている証

3年生はAO、指定校、公募制推薦と少しずつ結果が届くようになりました。センター試験までは残り60日、私大の一般入試では受験校を決定していく時期になりました。不安や焦りを感じている生徒も多いと思いますが、不安は頑張っている証です。何もやっていなければ不安もプレッシャーもありません。自分を信じて最後まで粘り強く努力しましょう。そして、勉強を続けていくことで、自信・確信をもつことができるようになります。

ところで、3年生に限らず模試を終えて多くの生徒が「できた、できなかった」で一喜一憂しています。しかし、その後が大切です。間違えた問題にどう向き合うか、その姿勢です。間違えた問題(答え)の中は知識の宝庫であり、間違えた問題こそ宝の山だと思います。できた問題をやり直すことにあまり意味はありません。時間を有効に使うことこそ、この時期には重要であり、時間がもったいないというタイムマネジメントを身につけて欲しいと思います。

模試の振り返りについては、正答、誤答には次のパターンがあります。①「理解していてできた」、②「理解していたけどできなかった」、③「理解していなかったけど(たまたま)できた」、④「理解できていなかったからできなかった」の4つです。このうち、②なら間違えた要因はどこかを分析することが必要です。また、③④なら分かっていたのだから、解答方法等を再度確認し、その問題が解けるようにしていくこと、苦手な問題を克服することにエネルギーを注いでいかなければなりません。

さあこれから勝負です。まだまだやれるし、まだまだ伸びます。自分を信じてラストスパートです。
(文責：堀)

『3年の窓』 センター試験 あと2ヶ月

〈1科目3点の重み〉

センター試験はマークシートのためか、1科目の得点が「60点」の場合と「63点」の場合とではあまり大差がないように感じます。しかし100点当たりの3点は、5-7科目で900点分集まると合計が27点(得点率3%)になります。27点の得点差は大学のランクで言えばおよそ1ランクの違いになるのです。河合塾のランク表によると、名工大-工-生命応用(73%)と岐阜大学-工-機械工(70%)、文系では名古屋-人文(82%)と名市大-人文社会-現代社会(79%)くらいの違いです。この27点(1科目3点)の差は将来を左右するくらいの差になるかもしれません。1科目3点の底上げをするためにがめつく勉強をしましょう。進路説明会でも話があったように、今後は27点どころか、あと100点、いや150点は点数を増やすことも不可能ではありません。過去の先輩の実績から、これは夢ではなく可能な数字です。あきらめずにやり抜く、それのみです。

〈得意科目で高得点—できれば3科目—〉

上述したように、全科目で3点増やす意識も大切ですが、得意科目で高得点を狙うという意識も大事です。みなさんも知っているように、私大のセンター利用やセンタープラスの中には「高得点3科目」などという入試も少なくありません。大学によって得点率に違いはありますが、7~8割の得点を3科目で取ると入試がかなり楽になります(昨年の中京大文系では3科目78%以上で合格といった結果でした)。公立大学でも3~4科目で受験可能な場合があり、3科目で高得点を取っておくと受験の幅が広がると同時に、私大がセンター利用のみで合格となり、入試そのものが楽になります。センター試験まで約2ヶ月を残すのみとなりました。ここから勝負です。やり抜きましょう。

〈消化試合にしない—進学先が決定した人—〉

「推薦で決まった人がやかましい」毎年少なからずこのような不満が聞こえます。推薦等で進学先が決まった人は、「入試が終わった」のではなく「次への競争が始まっている」と考えましょう。やらなくてよい科目なんてありません。文章が書けて、計算ができ、英語が少しでもわかる、そこに科学や歴史の知識が備わっていたり、時事問題に詳しいなどの要素が加わると、社会人として評価が上がると思います。一般入試の入学者に負けないう、社会人への準備と思って年末年始必死に勉強しましょう。
(文責：岡崎)

♪2年の窓♪

勉強でもスポーツでも、何を習得するにも日々の地道な積み重ねが大事であることは、皆さんも経験的によくわかっていると思います。好き・得意なことは毎日やっても全く苦でないけれど、苦手なことは、ある程度得意になるまでは、自分で練習し続けるのが難しいものです。毎日自分に小テストを課すのは手間だけれど、決まった時間がきてテストが目の前に用意されるので基礎練習を続けられるというのはその一例です。

英語学習においては、留学して3ヵ月後に耳栓がポンと抜けるように周りの言っていることが頭に入ってきたという体験談をよく聞きます。つまり、それまでに見たり聞いたり読んだり、いろいろと頭に蓄積されてきたことがある時に容器から溢れだして、聞ける、話せるという状態になるようです。他教科でもある程度共通する所はあると思います。大学入試に向けて高校生活もちょうど折り返し地点の高2生ですが、「なんかわかってきた！」と考える所まで、あと少し、もう少しと思って日々の努力を積み重ねていきましょう。

地道な基礎固めと同じくらい大切なのが「応用力」・「実践力」です。高2生の皆さんとは入学当初からひたすら英語で話すよう努めてきた私ですが、2年生になってからは、皆さんの「とっさの一言英会話」に感心したり、思わず笑ってしまうことが多々あります。

◆体調が悪そうな男子生徒に保健室近くで遭遇。

“Are you OK?” と尋ねると、“I'm OK. Don't worry!”

◆可愛い小型扇風機を持った女の子と仲間達に階段で遭遇。

“Cute fan!” と声をかけると、別の女の子が、“NO! It's mine!!”

◆試合で公欠をする男子が、「明日、大会で公欠します。」と報告に来たので…

“English, please!”と促すと、“I'll have a big game tomorrow. I will win!”

◆ある女子生徒が名古屋行きの電車に一人で乗車中、外国人カップルに声をかけられ…

“Excuse me, how can we get to Nagoya?” と聞かれたものの、(もう乗ってるよお…なんて説明すればいいの?)と悩んだ彼女は一言、“STAY.” (そのカップルに大爆笑されたそうです。)

こんな2年生に元気をもらう日々です。基礎も応用もどちらも大事。中間考査頑張っ！(文責：桑原)

♪1年の窓♪

後期中間考査に向けて

考査まで残り6日ですね。後期中間考査までの計画とその実行はできているでしょうか？以前のさか草で渡邊完先生が「試験勉強の前に必要なことは、①学習計画を練る、②学習する、③②の途中で学習計画を微調整する、④範囲を終了させる、⑤できなかった問題をもう一度解く、という学習過程です」とみなさんへのメッセージがありました。テストに向けての取り組み方は毎回同じです。みなさんの中には毎回やることは同じなのに同じ失敗をしてしまうという人はいませんか？そんなことが3年生まで続けば、受験本番でも同じ失敗をしてしまいます。1回1回のテストは本番であり、受験に対しての取り組み方の練習になります。もうすぐ12月…1年後には受験生！頑張れ！1年生！！！！

ポートフォリオについて

ポートフォリオを自主的に活用できているでしょうか？主に学校で行われた講演でのことを記録しているかと思います。中にはオープンキャンパスで学んだことや感じたことを記録している生徒もいて、うれしく思いました。何でもいいんです。係や委員会、ボランティア、部活、検定など自主的に動いて、感じたことやこれからの自分について考え、振り返ってください。文章にする力もつき、自己をアピールする力にもなります。以前、「なぜ学ぶのか、学びの楽しさについて」で原清治先生が学力は単純な頭のよさではなく、人への思いやりやコミュニケーション能力、主体的に動く力、声に出して発信する力と話されたかと思います。自らアンテナを張って行動し、振り返り、それを伝えられる人になってほしいです。私は講演に参加できませんでした。講演後のみなさんの振り返りを読んで、学力はテストの点数だけで測るのではなく、人としての温かさや強さでも測るのだと感じました。

(文責：澁谷)